

JC20 Rec'd PCT/PTO 04 OCT 2005

## IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re the Application of

Inventors: Ritsu MIURA

Appln No.: New PCT National Stage Application

Filed: October 4, 2005

For: NONLINEAR CIRCUIT, RADIO COMMUNICATION APPARATUS, AND  
NONLINEAR AMPLIFICATION METHODCLAIM FOR PRIORITYAssistant Commissioner of Patents  
Washington, D.C. 20231

Dear Sir:

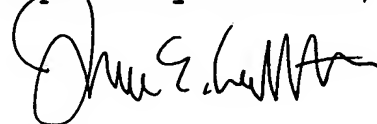
The benefit of the filing date of the following prior foreign application filed in the following foreign country is hereby requested for the above-identified application and the priority provided in 35 USC 119 is hereby claimed:

Japanese Appln. No. 2003-361257, filed October 21, 2003.

The International Bureau received the priority document within the time limit, as evidenced by the attached copy of the PCT/IB/304.

It is requested that the file of this application be marked to indicate that the requirements of 35 USC 119 have been fulfilled and that the Patent and Trademark Office kindly acknowledge receipt of this document.

Respectfully submitted,

James E. Ledbetter  
Registration No. 28,732

Date: October 4, 2005

JEL/jpf

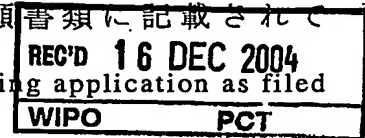
Attorney Docket No. L9289.05184  
STEVENS DAVIS, MILLER & MOSHER, L.L.P.  
1615 L STREET, NW, Suite 850  
P.O. Box 34387  
WASHINGTON, DC 20043-4387  
Telephone: (202) 785-0100  
Facsimile: (202) 408-5200

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

28.10.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.



出 願 年 月 日  
Date of Application: 2003年10月21日

出 願 番 号  
Application Number: 特願2003-361257  
[ST. 10/C]: [JP2003-361257]

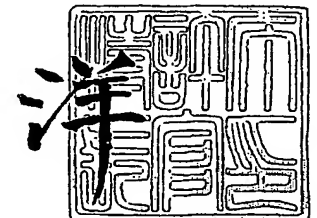
出 願 人  
Applicant(s): 松下電器産業株式会社

PRIORITY  
DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2004年12月 2日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願  
【整理番号】 2903150388  
【提出日】 平成15年10月21日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 H04B 7/26  
【発明者】  
    【住所又は居所】 神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1号 パナソニックモバイルコミュニケーションズ株式会社内  
    三浦 律  
    【氏名】  
【特許出願人】  
    【識別番号】 000005821  
    【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社  
【代理人】  
    【識別番号】 100105050  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 鷺田 公一  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 041243  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1  
    【包括委任状番号】 9700376

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

スロット間の境界の到来時刻が一致しない複数のチャネルが多重された入力信号を増幅する非線形素子と、

前記非線形素子に提供される電圧又は電流を制御する制御手段と、

前記制御手段が前記電圧又は前記電流の設定値を遷移させるタイミングを選択する選択手段と、

を具備することを特徴とする非線形回路。

**【請求項 2】**

前記選択手段は、複数の前記チャネルにおけるいずれかのスロット間の境界の到来時刻に同期して、前記制御手段が前記電圧又は前記電流の前記設定値を遷移させる前記タイミングを選択する、ことを特徴とする請求項 1 記載の非線形回路。

**【請求項 3】**

前記選択手段は、複数の前記チャネルにおけるいずれかのスロット間の境界の到来時刻に同期して、前記制御手段が前記電圧又は前記電流の前記設定値を遷移させる前記タイミングを選択すると共に、前記タイミングが選択された時刻とその次に前記タイミングが選択される時刻との間における前記設定値の最高値を予測し、予測された前記最高値を前記制御手段に通知して前記設定値を前記最高値に遷移させることを特徴とする請求項 1 記載の非線形回路。

**【請求項 4】**

前記選択手段は、前記非線形素子に実際に提供される前記電圧又は前記電流が前記設定値に到達するまでの過渡期間において、前記設定値を遷移させる前記タイミングを選択しないことを特徴とする請求項 1 記載の非線形回路。

**【請求項 5】**

前記選択手段に前記タイミングを選択させるトリガを生成する生成手段と、を具備することを特徴とする請求項 1 記載の非線形回路。

**【請求項 6】**

請求項 1 から請求項 5 のいずれかに記載の非線形回路を具備することを特徴とする無線通信装置。

**【請求項 7】**

スロット間の境界の到来時刻が一致しない複数のチャネルが多重された入力信号を増幅する増幅ステップと、

前記増幅ステップでの増幅に使用される電圧又は電流を制御する制御ステップと、

前記制御ステップで使用される前記電圧又は前記電流の設定値を遷移させるタイミングを選択する選択ステップと、

を具備することを特徴とする非線形増幅方法。

**【請求項 8】**

前記選択ステップで前記タイミングを選択させるトリガを生成する生成ステップと、を具備することを特徴とする請求項 7 記載の非線形増幅方法。

【書類名】明細書

【発明の名称】非線形回路、無線通信装置及び非線形増幅方法

【技術分野】

【0001】

本発明は、無線通信装置及び無線通信装置に具備される非線形回路、並びにこの非線形回路等により実施される非線形増幅方法に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、無線通信装置に具備される増幅器や変調器等には、トランジスタやダイオード等の印加電圧又は印加電流の変化とそれにより生ずる変化とが正比例しない非線形素子を使用されている。一般に電源電圧が一定であれば、非線形素子を具備する非線形回路は、図5に示すように出力電力が高くなるに従って高歪で高効率となり、一方で出力電力が低くなるに従って低歪で低効率となる。また図5から明らかなように、出力電力が一定であれば、非線形回路は電源電圧が低くなるに従って高歪で高効率となり、一方で電源電圧が高くなるに従って低歪で低効率となる。

【0003】

ここで、非線形回路を具備する無線通信装置、特に携帯電話等の移動体通信端末装置には、電力消費を抑制して通信時間及び待ち受け時間を延長することと、通信品質の改善と、が共に要求される。これは、送受信信号を高効率、かつ、低歪で増幅することが無線通信装置に要求されていることと同義である。しかし、図5から明らかなように、高効率と低歪とは、非線形回路にとって相反する特性であるため、これらの特性を同時に満足する無線通信装置を得ることは困難である。さらには、送受信信号の変調方式やその信号レベル（電力レベル）等によっても送受信信号を増幅する際に生じる歪の量に変化するため、無線通信装置では、これら非線形回路等の動作条件の変化に応じて増幅器に提供される印加電圧又は印加電流を、或いは増幅器における利得等を適応的に調節する必要がある。

【0004】

そこで、従来の無線通信装置では、送受信信号を高効率、かつ、低歪で増幅するために、非線形回路で生じる歪を無線通信システムの規定値上限まで許容すると共に、印加される電源電圧を低下させる技術が一般的に採用されている。例えば、非線形回路に提供される電源電圧の設定基準をこの非線形回路からの出力電力又はこの非線形回路への入力電力とする技術や、非線形回路へ入力される送受信信号の信号レベルを監視して、その送受信信号のピーク電力対平均電力比、その変調方式又はその変調速度に応じて印加電圧を適応的に調節する技術が知られている（特許文献1、特許文献2及び特許文献3参照）。

【0005】

図6は、従来の一般的な非線形回路10の構成を示すブロック図である。この非線形回路10は、送受信信号入力端子11、増幅器12、送受信信号出力端子13、電源設定値入力端子14及び電源制御部15を具備する。

【0006】

図7は、非線形回路10の送受信信号入力端子11から増幅器12にラインL701に示すスロット( $a_{i-1}$ ,  $a_i$ ,  $a_{i+1}$ ,  $a_{i+2}$ )が入力された場合において、非線形回路10の各構成部における電圧等を示すタイミング図である。図7において、ラインL702は増幅器12におけるスロット毎の出力電力の目標値( $P_{i-1}$ ,  $P_i$ ,  $P_{i+1}$ ,  $P_{i+2}$ )を、ラインL703は電源制御部15のスロット毎の印加電圧設定値( $V_{i-1}$ ,  $V_i$ ,  $V_{i+1}$ ,  $V_{i+2}$ )を、ラインL704は電源制御部15から増幅器12に実際に提供される印加電圧を、それぞれ示す。また、電源制御部15はラインL703に示す印加電圧の設定値を実際の印加電圧として増幅器12に提供することが理想であるが、電源制御部15がDC/DCコンバータ等を含んで構成される場合には、ラインL704に示すように、実際の印加電圧がその設定値の遷移に追従できないため、タイムラグの期間( $T_{resp, i}$ ,  $T_{resp, i+1}$ ,  $T_{resp, i+2}$ )が生じる。

【0007】

また、図 8 に、増幅器 12 についての出力電力と印加電圧との関係の一例を示す。一般的に増幅器 12 では、その出力信号こそが無線通信システムで許容される歪を満足しつつ高効率動作するための動作条件であることから、その出力電力が高くなるに従って、印加しなければならない電源電圧も高くなる傾向にある。

#### 【0008】

次いで、非線形回路 10 の動作について、図 6、図 7 及び図 8 を適宜参照しつつ説明する。送受信信号入力端子 11 に入力された送受信信号は、増幅器 12 で増幅された後に送受信信号出力端子 13 に出力される。一方で、増幅器 12 が出力しようとする電力の情報（増幅器 12 の出力電力の目標値を含む）は、電源設定値入力端子 14 から電源制御部 15 に入力される。電源制御部 15 は、入力されてきた増幅器 12 の出力電力の目標値に基づき、図 8 に示す特性を勘案した上で、増幅器 12 に印加する電源電圧を調節する。ここで、増幅器 12 に入力される送受信信号の信号レベルはライン L701 に示すスロット毎に変化するため、増幅器 12 の出力電力の目標値も入力される送受信信号の信号レベルの遷移に応じて逐次変化することになる。そして、この増幅器 12 の出力電力の遷移に応じて電源制御部 15 が増幅器 12 に印加する電源電圧を調節することになるが、電源制御部 15 に具備される DC/DC コンバータの特性によって、ライン L704 に示すような印加電圧変化のライムラグ期間 ( $T_{resp, i}$ 、 $T_{resp, i+1}$ 、 $T_{resp, i+2}$ ) が生じることになる。

#### 【0009】

このライン L704 に示すような印加電圧の設定値の遷移に実際の印加電圧が追従でないことに起因して生じるライムラグ期間（以下、「過渡期間」と称することがある）では、当然ながら電源制御部 15 から増幅器 12 に実際に提供される印加電圧がライン L703 に示す印加電圧の設定値とずれてしまうため、増幅器 12 の出力電力について送受信信号の歪が増大するおそれがある。しかし、増幅器 12 での増幅に起因して生じた送受信信号の歪は、ライン L701 に示す送受信信号のスロット単位で時間平均化されるため、過渡期間が短ければ、送受信信号の歪の増大は軽微となり、非線形回路 10 を用いた通信品質を著しく劣化させることはない。ちなみに、この過渡期間におけるライン L704 に示す電源制御部 15 の実際の印加電圧とライン L703 に示す電源制御部 15 の印加電圧の設定値との差は、実際の印加電圧がその設定値より低い場合に顕在化し易い。

【特許文献 1】特開昭 63-155904 号公報

【特許文献 2】特開 2001-244828 号公報

【特許文献 3】特開 2001-320288 号公報

#### 【発明の開示】

#### 【発明が解決しようとする課題】

#### 【0010】

ところが、従来の非線形回路 10 では、電源設定値入力端子 14 から電源制御部 15 に増幅器 12 の出力電圧の目標値に関する新たな情報が入力されてくる毎に、ライン L703 に示す電源制御部 15 の印加電圧の設定値が遷移することになる。電源制御部 15 で使用される印加電圧の設定値が頻繁に遷移すれば、即ち個々の印加電圧の設定値の有効期間が短ければ、過渡期間が多発することになるため、増幅器 12 の出力電力について送受信信号の歪の増大が顕在化することになり、非線形回路 10 を具備する無線通信装置の通信品質が著しく劣化することになる。

#### 【0011】

図 9 は、ライン L901 に示すチャネル A のスロット ( $a_{i-1}$ 、 $a_i$ 、 $a_{i+1}$ 、 $a_{i+2}$ ) とライン L902 に示すチャネル B のスロット ( $b_{j-1}$ 、 $b_j$ 、 $b_{j+1}$ 、 $b_{j+2}$ ) とが符号分割多重されて送受信信号入力端子 11 から増幅器 12 に入力された場合において、非線形回路 10 の各構成部における電圧等を示すタイミング図である。図 9 から明らかなように、チャネル A、B におけるスロット間の境界は、時間経過方向で一致していない。ライン L903 は増幅器 12 の出力電力の目標値 ( $P_{i-1, j-1}$ 、 $P_{i, j}$ 、 $P_{i+1, j}$ 、 $P_{i+1, j+1}$ 、 $P_{i+2, j+1}$ 、 $P_{i+2, j+2}$ 、

j+2)を示し、ラインL904は電源制御部15から増幅器12への印加電圧の設定値( $V_{i-1, j-1}$ 、 $V_{i, j-1}$ 、 $V_{i, j}$ 、 $V_{i+1, j}$ 、 $V_{i+1, j+1}$ 、 $V_{i+2, j+1}$ 、 $V_{i+2, j+2}$ )を示し、ラインL905は電源制御部15から増幅器12に実際に提供される印加電圧を示す。

#### 【0012】

図9では、チャンネルAのスロット間の境界とチャンネルBのスロット間の境界とが時間経過方向で一致していないため、ラインL905における電源制御部15から増幅器12に実際に提供される印加電圧は、単一のチャンネルの場合即ちラインL704と比較すると、その変化量が大きく、かつ、過渡期間が長くなっている。その結果、増幅器12の出力電力について送受信信号の歪が増大し、非線形回路10を具備する無線通信装置の通信品質が劣化する問題が生じる。なお、図9では、2つのチャンネルが符号分割多重される場合について記載したが、多重されるチャンネル数がさらに増えれば、増幅器12の出力電力について送受信信号の歪が一層増大し、非線形回路10を具備する無線通信装置の通信品質が劣化する問題がより顕在化し易くなる。

#### 【0013】

本発明はかかる点に鑑みてなされたものであり、スロット間の境界の到来時刻が一致しない複数のチャンネルが多重された送受信信号を非線形素子によって増幅するに際して、非線形素子に提供される印加電圧又は印加電流の設定値を遷移させるタイミングを取捨選択することにより、その設定値を遷移させる回数を削減し、さらには非線形素子に実際に提供される印加電圧又は印加電流を選択された設定値により早く到達させて、送受信信号の増幅に起因する歪の発生を抑制する非線形回路、非線形増幅方法及びこの非線形回路を具備する無線通信装置を提供することを目的とする。

#### 【課題を解決するための手段】

#### 【0014】

本発明に係る非線形回路は、スロット間の境界の到来時刻が一致しない複数のチャンネルが多重された入力信号を増幅する非線形素子と、前記非線形素子に提供される電圧又は電流を制御する制御手段と、前記制御手段が前記電圧又は前記電流の設定値を遷移させるタイミングを選択する選択手段と、を具備する構成を採る。

#### 【0015】

この構成によれば、制御手段によって非線形素子に提供される印加電圧又は印加電流について、その設定値を遷移させるタイミングが選択手段によって取捨選択されるため、制御手段がその設定値を遷移させる回数を削減できることから、非線形回路での増幅によって送受信信号に生じる歪を低減することができる。

#### 【0016】

本発明に係る非線形回路は、前記発明において、前記選択手段は、複数の前記チャンネルにおけるいずれかのスロット間の境界の到来時刻に同期して、前記制御手段が前記電圧又は前記電流の前記設定値を遷移させる前記タイミングを選択する、構成を採る。

#### 【0017】

この構成によれば、選択手段がスロット間の境界の到来時刻に同期して前記タイミングを選択すればよくなるため、選択手段の動作を簡素化することができる。

#### 【0018】

本発明に係る非線形回路は、前記発明において、前記選択手段は、複数の前記チャンネルにおけるいずれかのスロット間の境界の到来時刻に同期して、前記制御手段が前記電圧又は前記電流の前記設定値を遷移させる前記タイミングを選択すると共に、前記タイミングが選択された時刻とその次に前記タイミングが選択される時刻との間における前記設定値の最高値を予測し、予測された前記最高値を前記制御手段に通知して前記設定値を前記最高値に遷移させる構成を採る。

#### 【0019】

この構成によれば、制御手段で使用される印加電圧又は印加電流の設定値が常に最高値に維持されるため、非線形素子による入力信号(送受信信号)の増幅において、歪の発生

を効果的に抑制することができる。

【0020】

本発明に係る非線形回路は、前記発明において、前記選択手段は、前記非線形素子に実際に提供される前記電圧又は前記電流が前記設定値に到達するまでの過渡期間において、前記設定値を遷移させる前記タイミングを選択しない構成を採る。

【0021】

この構成によれば、過渡期間中に到来する前記設定値を遷移させるタイミングが選択手段によって選択されないため、ある過渡期間が終了する前に次の過渡期間が始まる状況を回避でき、過渡期間が連続的に長期間生じる状況を回避することができる。

【0022】

本発明に係る非線形回路は、前記発明において、前記選択手段に前記タイミングを選択させるトリガを生成する生成手段と、を具備する構成を採る。

【0023】

この構成によれば、前記発明による効果に加えて、生成手段によるトリガの生成が選択手段におけるタイミングの選択の前提条件となるため、生成手段が非線形回路に入力されてくる送受信信号の態様に応じたトリガを生成することにより、制御手段による印加電圧又は印加電流の制御に関する設定の自由度が増し、非線形回路での送受信信号の増幅におけるその歪と効率との設定範囲を拡げることができ、非線形回路の動作を最適化することができる。

【0024】

本発明に係る無線通信装置は、前記発明に係る非線形回路を具備する構成を採る。

【0025】

この構成によれば、前記発明に係る非線形回路が具備されるため、無線通信における通信品質を改善することができる。

【0026】

本発明に係る非線形増幅方法は、スロット間の境界の到来時刻が一致しない複数のチャネルが多重された入力信号を増幅する増幅ステップと、前記増幅ステップでの増幅に使用される電圧又は電流を制御する制御ステップと、前記制御ステップで使用される前記電圧又は前記電流の設定値を遷移させるタイミングを選択する選択ステップと、を具備するようにした。

【0027】

この方法によれば、制御ステップにおいて印加電圧又は印加電流の設定値を遷移させるタイミングが選択ステップで取捨選択されるため、制御ステップで印加電圧又は印加電流の設定値を遷移させる回数を削減できることから、非線形増幅によって送受信信号に生じる歪を低減することができる。

【0028】

本発明に係る非線形増幅方法は、前記発明において、前記選択ステップで前記タイミングを選択させるトリガを生成する生成ステップと、を具備するようにした。

【0029】

この方法によれば、前記発明による効果に加えて、生成ステップにおけるトリガの生成が選択ステップにおけるタイミングの選択の前提条件となるため、生成ステップで非線形回路に入力されてくる送受信信号の態様に応じたトリガを生成することにより、制御ステップでの印加電圧又は印加電流の制御に関する設定の自由度が増し、非線形回路での送受信信号の増幅におけるその歪と効率との設定範囲を拡げることができ、非線形回路の動作を最適化することができる。

【発明の効果】

【0030】

本発明によれば、制御手段によって非線形素子に提供される印加電圧又は印加電流について、その設定値を遷移させるタイミングが選択手段によって取捨選択されるため、制御手段がその設定値を遷移させる回数を削減できることから、非線形回路における増幅によ



って送受信信号に生じる歪を低減することができる。さらに、本発明によれば、前記タイミングが適宜取捨選択されるため、過渡期間の発生回数が削減され、かつ、個々の過渡期間が短縮されることから、非線形回路における増幅によって送受信信号に生じる歪を一層低減することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0031】

本発明の骨子は、非線形回路を用いて送受信信号を増幅するに際して、複数のチャンネルが多重されていること等に起因して送受信信号の信号レベルが短期間で変化する場合において、その送受信信号に印加される電源電圧又は電源電流の設定値を遷移させるタイミングを非線形回路に入力されてくる送受信信号の態様に応じて選択することである。

【0032】

以下、本発明の実施の形態について、図を適宜参照しつつ具体的に説明する。

【0033】

(実施の形態1)

図1は、本発明の実施の形態1に係る非線形回路100の構成を示すブロック図である。非線形回路100は、送受信信号入力端子101、増幅器102、送受信信号出力端子103、動作条件入力端子104、電源制御部105、タイミング信号入力端子106及び操作部110を具備する。非線形回路100は、携帯電話等の移動局や基地局等の無線通信装置に搭載されて、その送信信号乃至受信信号を増幅する。

【0034】

操作部110は、動作判定部111及びタイミング選択部112を具備し、電源制御部105の動作を操作する。

【0035】

送受信信号入力端子101には、スロット間の境界が時間経過方向で一致しないチャンネルAとチャンネルBとの符号分割多重された送受信信号が図示しない信号処理部から入力される。送受信信号入力端子101に入力された送受信信号は、増幅器102に入力される。

【0036】

増幅器102は、汎用の低雑音アンプ等で構成される非線形増幅器であり、送受信信号入力端子101から入力されてくる符号分割多重された送受信信号を予め設定された利得で増幅した後に送受信信号出力端子103に出力する。なお、増幅器102は、その利得を適宜調節できるが、本実施の形態では、利得を固定したままとする。

【0037】

送受信信号出力端子103には、図示しない信号処理部が接続される。送受信信号出力端子103から信号処理部に入力される増幅された送受信信号は、所定の信号処理を施された後に、無線送信されたり、データ信号に復号されたりする。

【0038】

動作条件入力端子104は複数設置され、そのいずれかの端子にチャンネルAの信号レベルを示す情報とチャンネルBの信号レベルを示す情報とがそれぞれ入力される。そして、これらのチャンネル別の信号レベルを示す情報は、電源制御部105及び動作判定部111にそれぞれ入力される。

【0039】

電源制御部105は、図示しない電源部から常時電力を提供されており、動作条件入力端子104から入力されてくるチャンネルAの信号レベルを示す情報とチャンネルBの信号レベルを示す情報とに基づいて、これらのチャンネルの送受信信号を符号分割多重した場合における送受信信号の信号レベルを算出する。また、電源制御部105は、この算出された信号レベルを増幅器102に印加する電源電圧の設定値として使用して、その設定値を使用した印加電圧を増幅器102に提供する。また、電源制御部105は、増幅器102に提供する印加電圧について、算出された前記信号レベルと異なる設定値を使用するようにタイミング選択部112から通知されたときには、その通知に従ってタイミング選択部1

12 から通知された設定値を使用した印加電圧を増幅器 102 に提供する。なお、電源制御部 105 においても、印加電圧の設定値が遷移した場合には、従来の増幅器 12 と同様に過渡期間が発生する。

#### 【0040】

タイミング信号入力端子 106 は複数設置され、その一の端子には、チャンネル A の送受信信号についてスロット間の境界が到来したことを示すタイミング信号 A が入力され、また他の端子には、チャンネル B の送受信信号についてスロット間の境界が到来したことを示すタイミング信号 B が入力される。また、タイミング信号入力端子 106 の各端子に入力されたタイミング信号 A、B は、それぞれタイミング選択部 112 に入力される。なお、タイミング信号 A 及びタイミング信号 B と、送受信信号入力端子 101 から増幅器 102 に入力されるチャンネル A 及びチャンネル B の符号分割多重された送受信信号と、動作条件入力端子 104 から電源制御部 105 及び動作判定部 111 に入力されるチャンネル A の送受信信号の信号レベルを示す情報及びチャンネル B の送受信信号の信号レベルを示す情報と、はそれぞれ連動している。従って、タイミング信号 A 及びタイミング信号 B を観察することにより、操作部 110 は、増幅器 102 及び電源制御部 105 に入力されている送受信信号等の態様を把握することができる。

#### 【0041】

動作判定部 111 は、動作条件入力端子 104 から入力されてくるチャンネル別の信号レベルを示す情報を時系列で蓄積して観察し、そのチャンネル別の信号レベルの周期を判定する。また、動作判定部 111 は、判定したチャンネル別の信号レベルの周期に基づいて、動作条件入力端子 104 から入力されているチャンネル A 又はチャンネル B のいずれか一方の信号レベルが遷移した後の信号レベルを予測する。そして、動作判定部 111 は、その予測された遷移後の信号レベルで符号分割多重された送受信信号の信号レベルを算出し、この算出された遷移後の送受信信号の信号レベルを随時タイミング選択部 112 に入力する。

#### 【0042】

タイミング選択部 112 は、タイミング信号入力端子 106 から入力されてくるタイミング信号 A 及びタイミング信号 B を時系列に蓄積して観察することにより、各チャンネルの送受信信号を符号分割多重した場合における送受信信号の信号レベルが遷移するタイミングを予測する。また、タイミング選択部 112 は、この予測された遷移するタイミングと、動作判定部 111 から入力されてくる遷移後の送受信信号の信号レベルと、に基づいて、タイミング信号 A が入力された直後の符号分割多重された送受信信号の信号レベルと、タイミング信号 A の次に入力されてくるタイミング信号 B が入力された直後の符号分割多重された送受信信号の信号レベルと、を算出する。そして、タイミング選択部 112 は、タイミング信号 A とタイミング信号 B との入力間隔、並びにタイミング信号 A が入力された後の信号レベルとタイミング信号 B が入力された後の信号レベルを勘案して、送受信信号の信号レベルを調節するためにより適切な方のタイミング信号 A 又はタイミング信号 B を選択する。さらに、タイミング選択部 112 は、選択されなかった方のタイミング信号がタイミング信号入力端子 106 から入力されてきた時に、その後に入力されてくる選択された方のタイミング信号が入力された後の送受信信号の信号レベルの設定値を使用するように、電源制御部 105 に通知する。

#### 【0043】

次いで、非線形回路 100 の動作について、図 2 を参照しつつ具体的に説明する。図 2 は、ライン L201 に示すチャンネル A のスロット ( $a_{i-1}$ 、 $a_i$ 、 $a_{i+1}$ 、 $a_{i+2}$ ) とライン L202 に示すチャンネル B のスロット ( $b_{j-1}$ 、 $b_j$ 、 $b_{j+1}$ 、 $b_{j+2}$ ) とが符号分割多重された後に送受信信号入力端子 101 から増幅器 102 に入力された場合において、非線形回路 100 の各構成部における電圧の設定値や実際の印加電圧を示すタイミング図である。

#### 【0044】

ライン L201 に示すチャンネル A のスロット ( $a_{i-1}$ 、 $a_i$ 、 $a_{i+1}$ 、 $a_{i+2}$ ) は、図 9 に示すライン L901 のスロット ( $a_{i-1}$ 、 $a_i$ 、 $a_{i+1}$ 、 $a_{i+2}$ ) と同

一であり、同様にラインL202に示すチャネルBのロット ( $b_{j-1}$ 、 $b_j$ 、 $b_{j+1}$ 、 $b_{j+2}$ ) は、ラインL902に示すチャネルBのロット ( $b_{j-1}$ 、 $b_j$ 、 $b_{j+1}$ 、 $b_{j+2}$ ) と同一である。従って、図2では、図9に示す送受信信号を非線形回路100で増幅する場合において、非線形回路100の各構成部における印加電圧の設定値等を示すことになる。

#### 【0045】

図2において、チャネルA、Bそれぞれのロット間の境界は、時間経過方向で一致していない。また、図2において、ラインL203では、タイミング信号入力端子106からタイミング選択部112に入力されるチャネルAのロット間の境界が到来したことを通知するタイミング信号Aを示し、ラインL204では、同チャネルBのロット間の境界が到来したことを通知するタイミング信号Bを示す。

#### 【0046】

ラインL205には、増幅器102の出力電力の目標値を示す。ラインL205では、ラインL201に示すチャネルAのロット ( $a_{i-1}$ 、 $a_i$ 、 $a_{i+1}$ 、 $a_{i+2}$ ) とラインL202に示すチャネルBのロット ( $b_{j-1}$ 、 $b_j$ 、 $b_{j+1}$ 、 $b_{j+2}$ ) との重畳態様によって増幅器102の出力電力の目標値が異なることから、増幅器102の出力電力の目標値をそれぞれ「 $P_{k-1}$ 、 $P_k$ 、 $P_{k+1}$ 、 $P_{k+2}$ 、 $P_{k+3}$ 、 $P_{k+4}$ 、 $P_{k+5}$ 」と表記する。

#### 【0047】

ラインL206には、電源制御部105が増幅器102に提供する印加電圧の設定値を示す。ラインL206でも、ラインL201に示すチャネルAのロット ( $a_{i-1}$ 、 $a_i$ 、 $a_{i+1}$ 、 $a_{i+2}$ ) とラインL202に示すチャネルBのロット ( $b_{j-1}$ 、 $b_j$ 、 $b_{j+1}$ 、 $b_{j+2}$ ) との重畳態様によって電源制御部105の印加電圧の設定値が異なることから、電源制御部105の印加電圧の設定値をそれぞれ「 $V_{k-1}$ 、 $V_k$ 、 $V_{k+1}$ 、 $V_{k+2}$ 、 $V_{k+3}$ 、 $V_{k+4}$ 、 $V_{k+5}$ 」と表記する。なお、ラインL206における印加電力の設定値  $V_k$ 、 $V_{k+2}$  及び  $V_{k+5}$  は、それぞれ点線で示されている。また、印加電力の設定値  $V_k$ 、 $V_{k+2}$  及び  $V_{k+5}$  は、図9のラインL904における印加電力の設定値  $V_i$ 、 $j-1$ 、 $V_{i+1}$ 、 $j$  及び  $V_{i+2}$ 、 $j+2$  とそれぞれ同一である。

#### 【0048】

ラインL207には、電源制御部105から増幅器102に実際に提供される印加電圧が示されている。またラインL207には、過渡期間  $T_{resp, k}$ 、 $T_{resp, k+2}$ 、 $T_{resp, k+4}$  が示されており、さらに図9のラインL904における印加電圧が点線で示されている。また、ラインL207では、図9のラインL904で示される過渡期間を基準として、それより短縮された期間が「 $T_{short, k}$ 、 $T_{short, k+2}$ 、 $T_{short, k+4}$ 」と表記されている。

#### 【0049】

ここで、図2のラインL201におけるロット  $a_{i+1}$  の区間を例に、図9を適宜参照しつつ、非線形回路100の各構成部の動作について説明する。

#### 【0050】

チャネルAの送受信信号のロットがロット  $a_i$  からロット  $a_{i+1}$  に遷移する時刻において、動作条件入力端子104から電源制御部105及び動作判定部111にロット  $a_{i+1}$  の信号レベルを示す情報が入力され、同時にタイミング信号入力端子106からタイミング選択部112にタイミング信号  $A_{i+1}$  が入力される。

#### 【0051】

電源制御部105では、動作条件入力端子104からロット  $a_{i+1}$  の信号レベルを示す情報が入力されると、増幅器102に提供する印加電圧の設定値  $V_{k+2}$  が算出される。

#### 【0052】

一方で、動作判定部111では、動作条件入力端子104からロット  $a_{i+1}$  の信号

レベルを示す情報が入力されると、それまでに蓄積されたチャネルAのスロット毎の信号レベルとチャネルBのスロット毎の信号レベルとを参照して、次に到来するはずのスロット  $b_{j+1}$  の信号レベルを予測し、この予測値に基づいてスロット  $a_{i+1}$  とスロット  $b_{j+1}$  とを符号分割多重した場合の送受信信号の信号レベルを算出する。そして、動作判定部 111 は、この算出したスロット  $a_{i+1}$  とスロット  $b_{j+1}$  とを符号分割多重した場合の送受信信号の信号レベルを直ちにタイミング選択部 112 に入力する。なお、スロット  $b_{j+1}$  の信号レベルの予測値やスロット  $a_{i+1}$  とスロット  $b_{j+1}$  とを符号分割多重した場合の送受信信号の信号レベルの計算値等は、動作判定部 111 以外の構成部で生成されたり、予め設定されたりして、動作条件入力端子 104 から動作判定部 111 に入力されてもよい。

#### 【0053】

そのため、タイミング選択部 112 には、タイミング信号  $A_{i+1}$  と、スロット  $a_{i+1}$  及びスロット  $b_{j+1}$  を符号分割多重した場合の送受信信号の信号レベルと、がそれぞれ入力されてくることになる。タイミング選択部 112 は、タイミング信号入力端子 106 から入力されてくるタイミング信号 A、B 及びそれらの入力時刻と、動作判定部 111 から入力されてくる送受信信号の信号レベルと、を時系列に蓄積し、この蓄積されたタイミング信号 A、B の時刻を参照することによって、次に入力されてくるはずのタイミング信号  $B_{j+1}$  の入力時刻を予測する。そして、タイミング選択部 112 は、タイミング信号  $A_{i+1}$  が入力された直後におけるスロット  $a_{i+1}$  及びスロット  $b_j$  を符号分割多重した場合の送受信信号の信号レベルと、タイミング信号  $B_{j+1}$  が入力された直後におけるスロット  $a_{i+1}$  及びスロット  $b_{j+1}$  を符号分割多重した場合の送受信信号の信号レベルと、を比較して、さらにタイミング信号  $A_{i+1}$  が入力されてからタイミング信号  $B_{j+1}$  が入力されてくるまでの期間と、タイミング信号  $B_{j+1}$  が入力されてからタイミング信号  $A_{i+2}$  が入力されてくるまでの期間と、を比較して、信号レベルがより高い方の（最高値の）、かつ、より長い期間の方のタイミング信号  $B_{j+1}$  からタイミング信号  $A_{i+2}$  までの期間を適切な期間として選択する。続いて、タイミング選択部 112 は、選択された期間における送受信信号の信号レベルの設定値を使用するように電源制御部 105 に通知する。なお、本実施の形態では、信号レベルの高い方の期間がより長い期間となっているが、例えば信号レベルが高く、かつ、より短い期間と、信号レベルが低く、かつ、より長い期間と、が比較される場合には、信号レベルが高く、かつ、より短い期間が適切な期間として選択される。信号レベルが高く、かつ、より短い期間を適切な期間として選択すれば、増幅器 102 における送受信信号の増幅において、その増幅効率は低下するものの、歪の発生が軽減されるからである。

#### 【0054】

印加電圧の設定値  $V_{k+3}$  を使用するように通知された電源制御部 105 は、その通知に従って印加電圧の設定値  $V_{k+2}$  を排して、チャネルAでスロット  $a_i$  とスロット  $a_{i+1}$  との境界が到来した直後から印加電圧の設定値  $V_{k+3}$  を使用する。従って、過渡期間  $T_{resp, k+2}$  において、電源制御部 105 から増幅器 102 に実際に提供される印加電圧は低下することなく上昇し続けるため、増幅器 102 での送受信信号の増幅による歪は抑制される。さらに、電源制御部 105 から増幅器 102 に提供される実際の印加電圧は、その設定値である  $V_{k+3}$  に短期間で到達することができる。即ち、非線形回路 100 を用いれば、従来の非線形回路 10 を用いた場合と比較して、図 2 のライン L207 における  $T_{short, k+2}$  の期間だけ早く電源制御部 105 による印加電圧を設定値  $V_{k+3}$  に到達させることができる。

#### 【0055】

このように、本実施の形態に係る非線形回路 100 によれば、スロット間の境界の到来時刻が一致しないチャネルA及びチャネルBを符号分割多重した送受信信号を非線形素子である増幅器 102 で増幅する場合であっても、増幅器 102 に提供される印加電圧の設定値を遷移させる回数を削減しつつ、より適切な印加電圧の設定値を選択することにより、増幅器 102 での増幅に依拠する送受信信号の歪の発生を抑制することができると共に

、選択された印加電圧の設定値に実際の印加電圧をより短期間に到達させることができる。従って、本実施の形態に係る非線形回路100を具備する無線通信装置であれば、劣悪な通信環境下であっても、より良い通信品質を維持することができる。

#### 【0056】

なお、本実施の形態に係る非線形回路100について、次のように変形したり、応用したりしてもよい。

#### 【0057】

本実施の形態に係る非線形回路100では、増幅器102において送受信信号の電圧を増幅する場合について説明したが、本発明はこの場合に限定されるものではなく、例えば増幅器102にトランジスタ等の非線形回路素子を使用して、送受信信号の電流を増幅してもよい。また、増幅器102において、送受信信号の電圧と電流とを共に増幅してもよい。

#### 【0058】

また、本実施の形態に係る非線形回路100では、増幅器102に入力される送受信信号の信号レベルが各チャンネルのスロットの重畳態様に依拠して遷移する場合について説明したが、本発明はこの場合に限定されるものではなく、例えば送受信信号で多重されているチャンネル数が増減すること、或いは送受信信号のピーク電力対平均電力比の変化、その変調方式の変更又はその変調速度の変化に依拠して送受信信号の信号レベルが遷移する場合でもよい。このような場合でも、非線形回路100であれば、上述の作用及び効果を奏することができる。

#### 【0059】

また、本実施の形態では、チャンネルAでスロット $a_i$ とスロット $a_{i+1}$ との境界が到来した直後からタイミング選択部112が電源制御部105に印加電圧の設定値 $V_{k+3}$ を使用するように通知する場合について説明したが、本発明はこの場合に限定されるものではなく、例えばタイミング信号A又はタイミング信号Bのいずれか一方が入力されてきたときにだけタイミング選択部112が電源制御部105に印加電圧の設定値を遷移させ、他方のタイミング信号が入力されてきたときには、印加電圧の設定値を遷移させないようにしてもよい。具体的には、図2において、タイミング信号 $A_i$ が入力されてきた時に、タイミング選択部112が電源制御部105に印加電圧の設定値 $V_k$ を使用するように通知し、かつ、タイミング信号 $B_j$ が入力されてきた時には、タイミング選択部112が電源制御部105に印加電圧の設定値 $V_k$ を引き続き使用するように通知してもよい。このようにすれば、タイミング選択部112は、タイミング信号A又はタイミング信号Bを区別するだけでよいので、操作部110の構成及び動作を簡素化できると共に、増幅器102に実際に印加される電源電圧を短期間にその設定値に到達させ安定化させることができる。しかしながら、図2において、タイミング信号 $A_{i+1}$ が入力されてきた時に、タイミング選択部112が電源制御部105に印加電圧の設定値 $V_{k+2}$ を使用するように通知し、かつ、タイミング信号 $B_{j+1}$ が入力されてきた時には、タイミング選択部112が電源制御部105に印加電圧の設定値 $V_{k+2}$ を引き続き使用するように通知した場合には、タイミング信号 $A_{i+1}$ からタイミング信号 $A_{i+2}$ までの期間における印加電圧の設定値が低い状態で維持されるため、増幅器102での送受信信号の増幅による歪が増大する問題がある。従って、このような問題に対処するため、印加電圧の設定値に下限を設ける等の手段を講じることが好ましい。

#### 【0060】

(実施の形態2)

図3は、本発明の実施の形態2に係る非線形回路300の構成を示すブロック図である。非線形回路300は、実施の形態1における非線形回路100にトリガ生成部311を新たに付加したものである。従って、非線形回路300の構成要素の殆どは、非線形回路100の構成要素と同様の機能を発揮するため、このような同様の機能を発揮する構成要素については、重複を避けるため、説明を省略する。

#### 【0061】

トリガ生成部311は、タイミング信号入力端子106からタイミング信号A及びタイミング信号Bを入力されたときに、予め設定されたタイミングでタイミング選択部112にトリガを入力する。

#### 【0062】

また、タイミング選択部112は、トリガ生成部311からトリガが入力されてくることを条件として、実施の形態1で説明した動作と同様の動作を行い、電源制御部105に印加電圧の設定値やその設定値を遷移させるタイミングを通知する。

#### 【0063】

次いで、本実施の形態に係る非線形回路300の動作、特にトリガ生成部311及びタイミング選択部112の動作について、図4を参照しつつ、具体的に説明する。

#### 【0064】

図4は、ラインL401に示すチャンネルAのスロット( $a_{i-1}$ 、 $a_i$ 、 $a_{i+1}$ 、 $a_{i+2}$ )とラインL402に示すチャンネルBのスロット( $b_{j-1}$ 、 $b_j$ 、 $b_{j+1}$ 、 $b_{j+2}$ )とが符号分割多重された後に非線形回路300の送受信信号入力端子101から増幅器102に入力された場合において、非線形回路300の各構成部における電圧の設定値や実際の印加電圧等を示すタイミング図である。

#### 【0065】

図4は図2と対応しており、ラインL401はラインL201と、ラインL402はラインL202と、ラインL403はラインL203と、ラインL404はラインL204と、ラインL406はラインL205と、同一である。また、図4と図2とでは、図4のラインL405に対応するものが図2には記載されていないこと、図4のラインL407の印加電圧の設定値 $V'_{k+3}$ が図2のラインL206では設定値 $V_{k+3}$ であること、図4のラインL408では図2のラインL206における過渡期間 $T_{resp, k+2}$ が生じていないこと、で相違する。また、図4のラインL405では、トリガ生成部311からタイミング選択部112に入力されるトリガを示す。

#### 【0066】

ラインL403とラインL405とを対比すれば明らかなように、トリガ生成部311は、タイミング信号Aが2回入力される毎に1回トリガをタイミング選択部112に入力するように設定されている。トリガ生成部311からトリガが入力されたタイミング選択部112は、実施の形態1における動作と同様に、次の動作を行う。即ち、タイミング選択部112は、タイミング信号入力端子106から入力されてくるタイミング信号A及びタイミング信号Bを時系列に蓄積して観察することにより、各チャンネルの送受信信号を符号分割多重した場合における送受信信号の信号レベルが遷移するタイミングを予測する。また、タイミング選択部112は、この予測された遷移するタイミングと、動作判定部111から入力されてくる遷移後の送受信信号の信号レベルと、に基づいて、タイミング信号Aが入力された直後の符号分割多重された送受信信号の信号レベルと、タイミング信号Aの次に入力されてくるタイミング信号Bが入力された直後の符号分割多重された送受信信号の信号レベルと、を算出する。そして、タイミング選択部112は、タイミング信号Aとタイミング信号Bとの入力間隔、並びにタイミング信号Aが入力された後の信号レベルとタイミング信号Bが入力された後の信号レベルを勘案して、送受信信号の信号レベルを調節するためにより適切な方のタイミング信号A又はタイミング信号Bを選択する。さらに、タイミング選択部112は、選択されなかった方のタイミング信号がタイミング信号入力端子106から入力されてきた時に、その後に入力されてくる選択された方のタイミング信号が入力された後の送受信信号の信号レベルの設定値とするように、電源制御部105に通知する。

#### 【0067】

トリガ生成部311からトリガ $T_k$ がタイミング選択部112に入力されることにより、チャンネルAでスロット $a_{i-1}$ とスロット $a_i$ との境界が到来した直後からラインL407の印加電圧の設定値は $V_{k+1}$ となる。続いて、チャンネルAでスロット $a_i$ とスロット $a_{i+1}$ との境界が到来した時にはトリガ生成部311ではトリガが生成されないため、



ライン L 4 0 7 の印加電圧の設定値は  $V'_{k+3} = V_{k+1}$  のまま維持される。続いて、チャンネル A でスロット  $a_{i+1}$  とスロット  $a_{i+2}$  との境界が到来した直後にはトリガ生成部 3 1 1 ではトリガ  $T_{k+4}$  が生成されるため、ライン L 4 0 7 の印加電圧の設定値は  $V_{k+4}$  に遷移される。そして、本実施の形態では、ライン L 4 0 8 において、図 2 のライン L 2 0 6 における過渡期間  $T_{resp, k+2}$  が生じておらず、電源制御部 1 0 5 における印加電圧の設定値の遷移回数が削減されたことが判る。

#### 【0068】

このように、本実施の形態に係る非線形回路 3 0 0 によれば、トリガ生成部 3 1 1 におけるトリガの生成が電源制御部 1 0 5 での印加電圧の設定値の遷移の前提条件となるため、トリガ生成部 3 1 1 によるトリガの生成タイミングを調整することにより、増幅器 1 0 2 に実際に提供される印加電圧について過渡期間の発生数を削減できる。その結果、増幅器 1 0 2 での増幅に起因する送受信信号の歪の発生を一層抑制することができる。

#### 【0069】

また、本実施の形態に係る非線形回路 3 0 0 によれば、トリガ生成部 3 1 1 が具備されるため、タイミング選択部 1 1 2 や電源制御部 1 0 5 について設計や設定の自由度が増し、非線形回路 3 0 0 での送受信信号の増幅に関して、歪と効率とを一層広範囲に設定できるようになる。

#### 【0070】

ちなみに、トリガ生成部 3 1 1 を OR 回路や AND 回路等の論理積回路を組み合わせて構成すれば、種々のトリガを生成できるようになることから、トリガ生成部 3 1 1 の動作をさらに詳細に条件付けすることができる。

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0071】

本発明に係る非線形回路、無線通信装置及び非線形増幅方法は、制御手段によって非線形素子に提供される印加電圧又は印加電流について、その設定値を遷移させるタイミングが選択手段によって取捨選択されるため、制御手段がその設定値を遷移させる回数を削減できることから、非線形回路における増幅によって送受信信号に生じる歪を低減することができるという効果を有し、無線通信システムにおける移動局や基地局等として有用である。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0072】

【図 1】 本発明の実施の形態 1 に係る非線形回路の構成を示すブロック図

【図 2】 本発明の実施の形態 1 に係る非線形回路の動作を説明するタイミング図

【図 3】 本発明の実施の形態 2 に係る非線形回路の構成を示すブロック図

【図 4】 本発明の実施の形態 2 に係る非線形回路の動作を説明するタイミング図

【図 5】 従来の一般的な非線形回路で生じる歪やその効率を示す図

【図 6】 従来の一般的な非線形回路の構成を示すブロック図

【図 7】 従来の一般的な非線形回路の動作を説明するタイミング図

【図 8】 従来の一般的な非線形増幅器における電源電圧と出力電力との関係を示す図

【図 9】 従来の一般的な非線形回路の動作を説明するタイミング図

#### 【符号の説明】

#### 【0073】

1 0 0、3 0 0 非線形回路

1 0 1 送受信信号入力端子

1 0 2 増幅器

1 0 3 送受信信号出力端子

1 0 4 動作条件入力端子

1 0 5 電源制御部

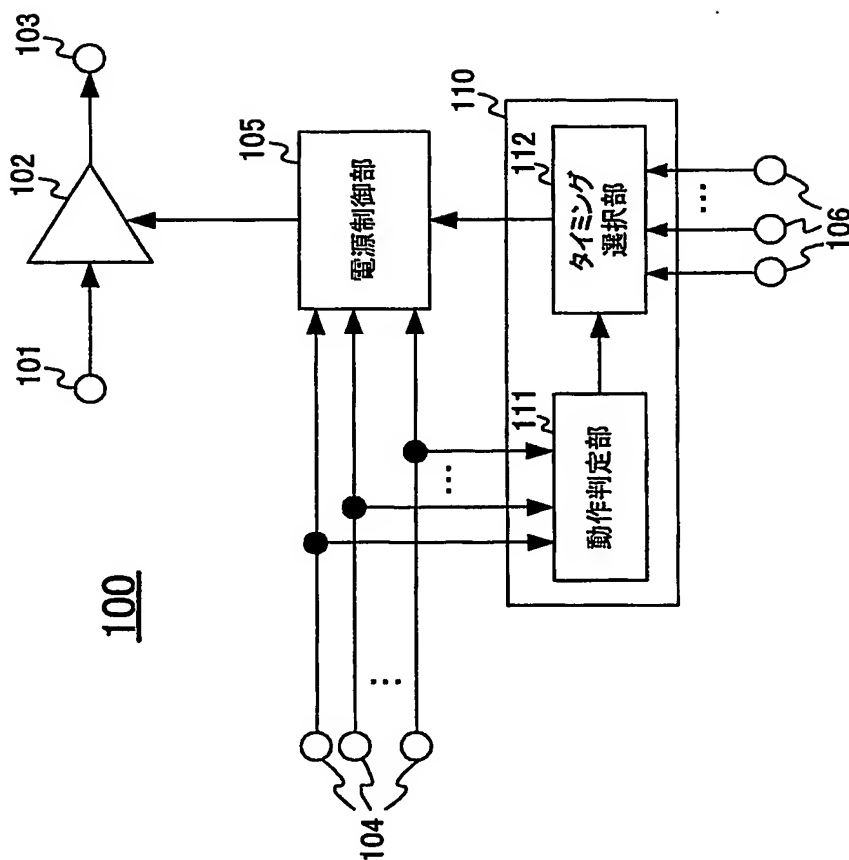
1 0 6 タイミング信号入力端子

1 1 0 操作部

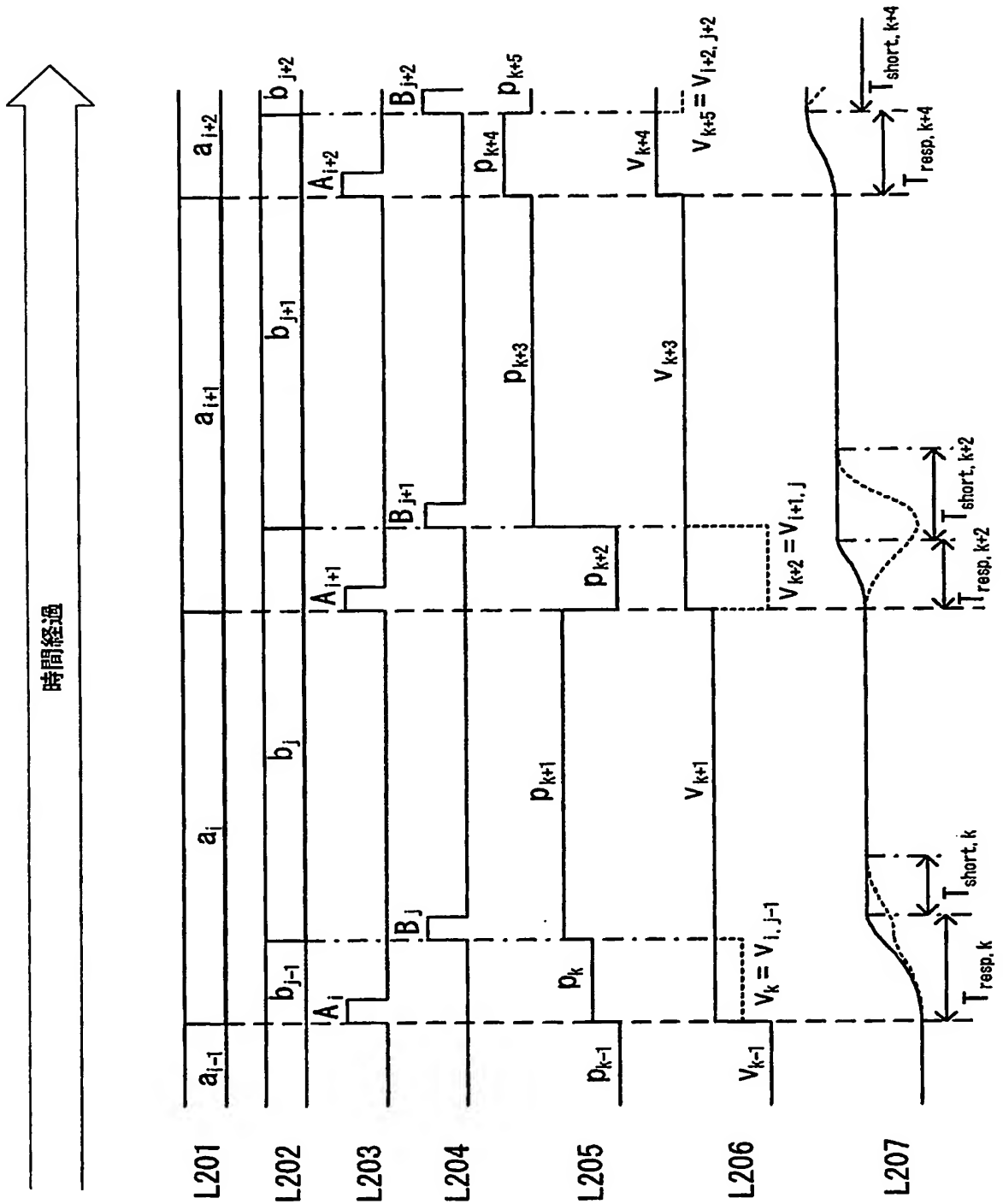
1 1 1 動作判定部  
1 1 2 タイミング選択部  
3 1 1 トリガ生成部



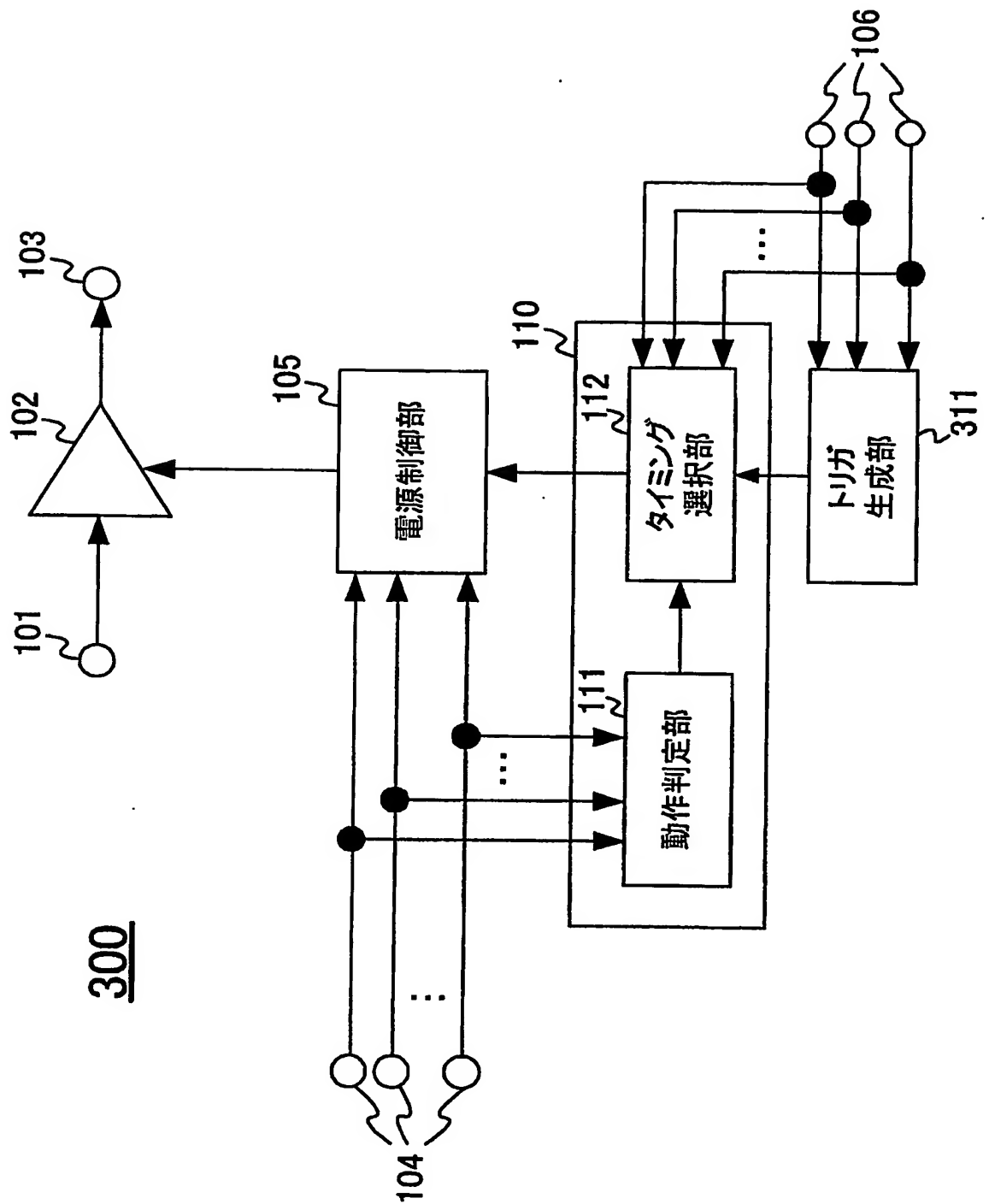
【書類名】 図面  
【図 1】



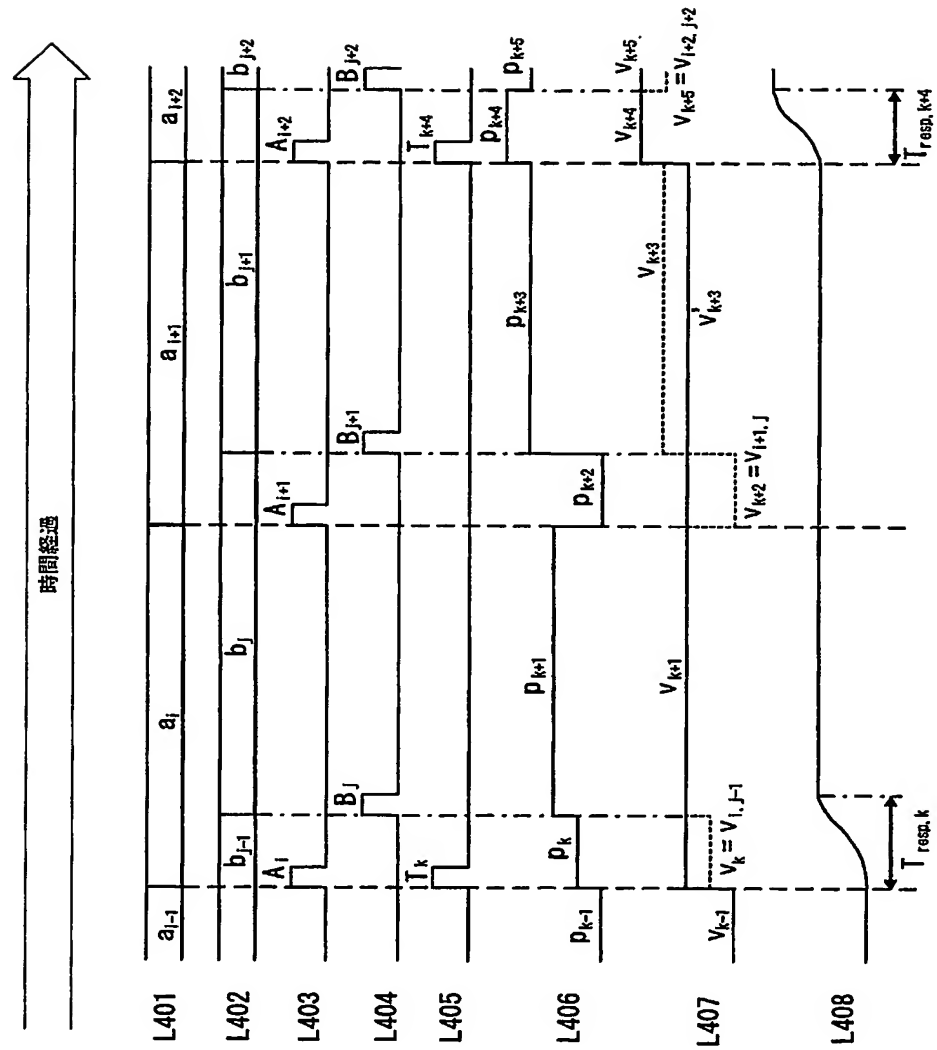
【図 2】



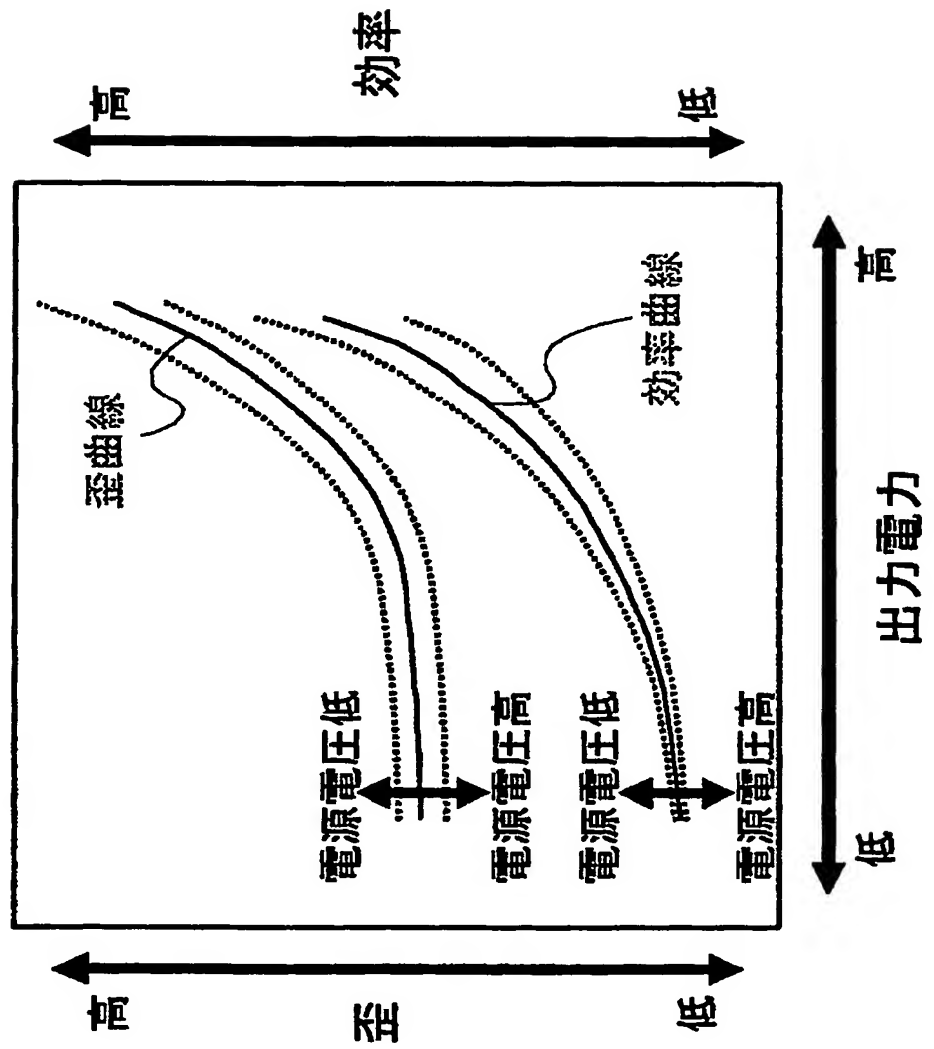
【図 3】



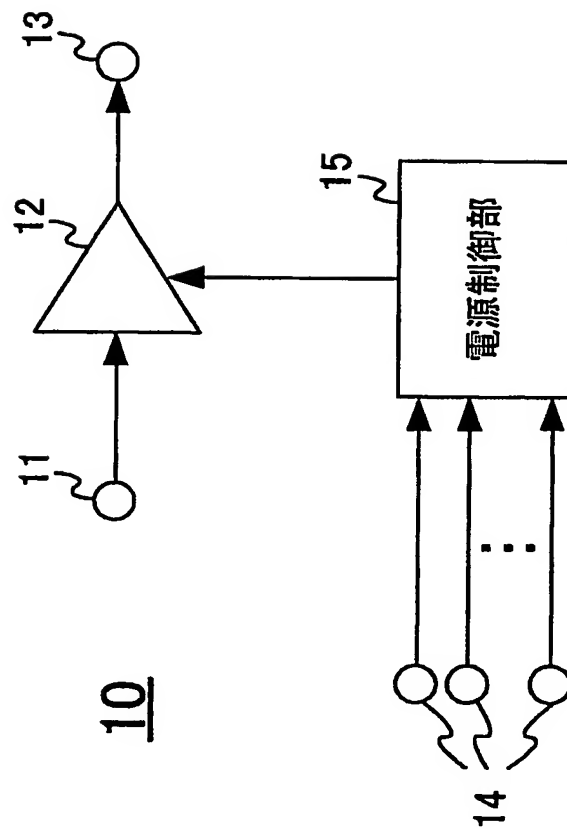
【図 4】



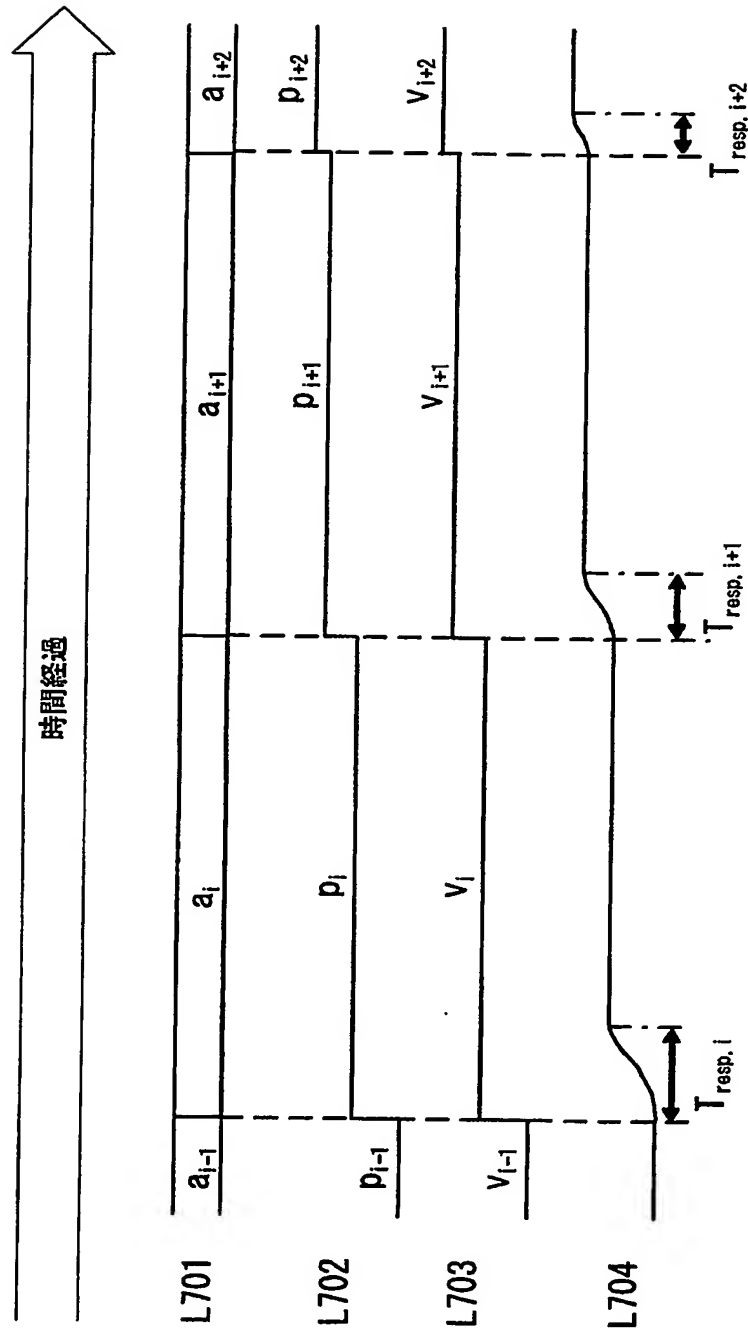
【図 5】



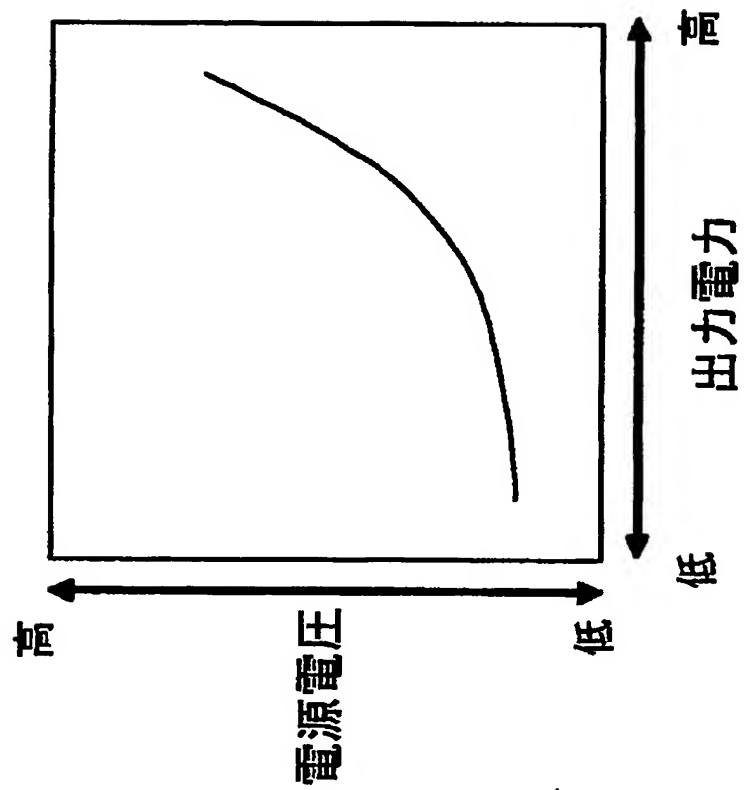
【図 6】



【図 7】

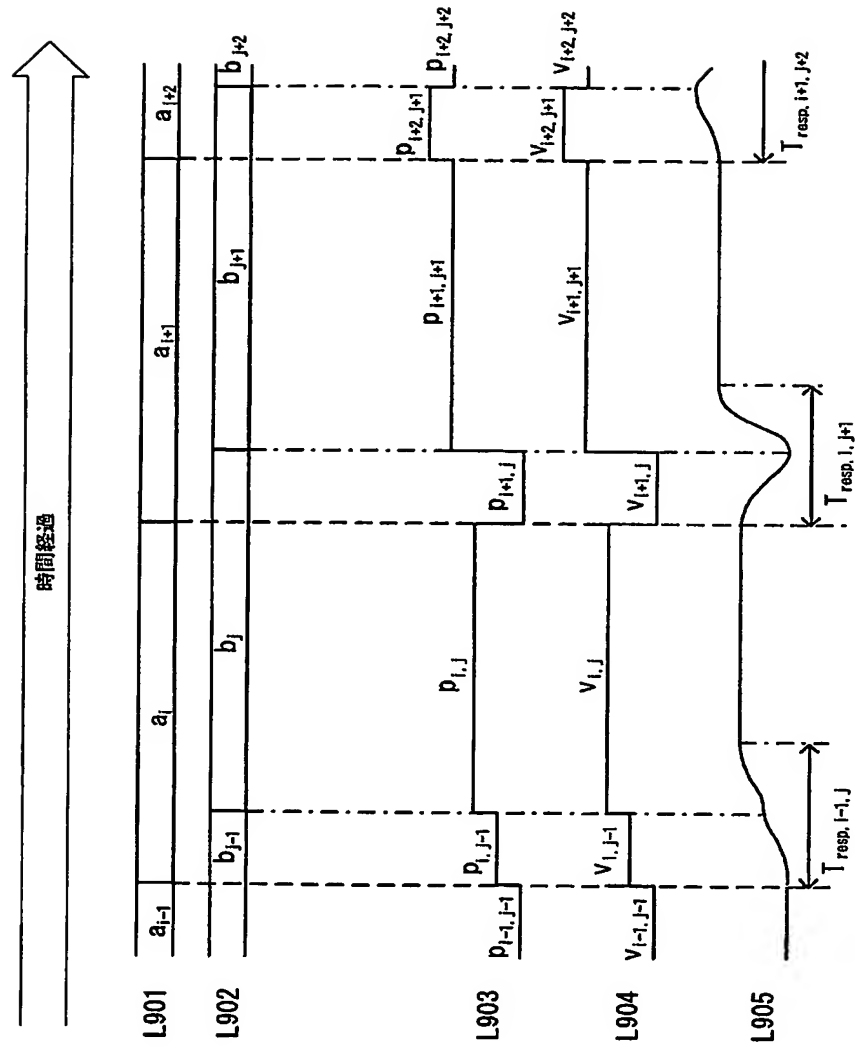


【図 8】





【図 9】



**【書類名】 要約書****【要約】**

**【課題】** スロット間の境界の到来時刻が一致しない複数のチャネルが多重された送受信信号を非線形素子によって増幅するに際して、非線形素子に提供される印加電圧又は印加電流の設定値を遷移させるタイミングを取捨選択することにより、その設定値を遷移させる回数を削減し、さらには非線形素子に実際に提供される印加電圧又は印加電流を選択された設定値により早く到達させて、送受信信号の増幅に起因する歪の発生を抑制する非線形回路、非線形増幅方法及びこの非線形回路を具備する無線通信装置を提供すること。

**【解決手段】** 電源制御部 1 0 5 は、通常は動作条件入力端子 1 0 4 から入力されてくる情報に基づいて増幅器 1 0 2 に提供する印加電圧の設定値を算出するが、タイミング選択部 1 1 2 から算出した印加電圧の設定値と異なる設定値を通知されたときには、その通知に従って異なる印加電圧を増幅器 1 0 2 に提供する。

**【選択図】** 図 1

特願 2 0 0 3 - 3 6 1 2 5 7

ページ： 1/E

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 5 8 2 1 ]

1. 変更年月日  
[変更理由]  
住 所  
氏 名

1 9 9 0 年 8 月 2 8 日  
新規登録  
大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地  
松下電器産業株式会社